



# 第168回やすらぎの会通信

令和6年3月16日(土)実施

通信をご愛読の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？山会長さんは、4月から施設に入所されて治療に専念されるようですが、皆様との面会もできるようになるかもしれません。昨年10月号から、自書の『不登校だっていいじゃないか』(2016)を少しずつ紹介しております。なお、通信の送付が必要でない方は、高(090-8265-3968)まで電話かショートメールでお知らせ下さい。4月の学習会ですが、20日(土)13時から白山市出城公民館(076-276-1286)で行います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 子どもが不登校に至るプロセスを知る

### 【中学生の事例】

2学期が始まってしばらくしてから、中学1年生の娘が、毎朝のように頭痛や腹痛を訴えるようになりました。今のところは、ぐずぐずしながらも何とか登校していますが、登校しなくなってしまうのではないかと不安です。これからどうしたらいいのでしょうか？

不登校の子どもは、決して「ある日突然」学校へ行けなくなるわけではありません。そうなる前に、何らかの「心のサイン」を出しているものです。もちろん、このサインは一人一人異なりますが、家族が見逃さないで早い段階で子どもの心を安定させることが大切です。それには、日頃から子どもとスキンシップをとったり会話の機会を作ったりしながら、子どもの状態を知っておくことが重要となります。ただし、思春期の子どもというのは、一般的になかなか心を開いてくれませんので、担任の先生にお願いして、本人が比較的話やすいスクールカウンセラーなどと面談してもらう方法もあります。

子どもが不登校に至るプロセスは、一人一人異なります。しかし、共通していることは、どの子どもも不登校になりたくてなったのではなく、そうなるだけの事情があったということです。不登校には、学校へ行きしづる「前兆期」があります。朝起きられない、頭痛や吐き気・腹痛・発熱が起きる、トイレが近くなる、泣き出すなど、登校前に異変が起こることが少なくありません。この場合、担任に欠席の連絡を入れてしばらくすると、身体症状が消えることがよくあります。

また、行動に変化が起こることがあります。朝の登校時に、家族に学校まで送ってもらいたがる、友達との交際が減る、学校の不満を訴える、学習意欲の低下などです。子どもがいつもとは違う時、「よくある腹痛」とか「怠け心」などと単純に考えて見過ごしがちですが、これらの変化は、子どもの心が助けを求めていることを示す「心のサイン」です。日頃から子どもと学校や学校以外の話題に会話の機会を作ったりして、話やすい雰囲気づくりに心がけるなどの工夫をしていると、心のサインを見つけやすくなります。(高)

